

アマダイ通信NO.36

(Tile fish network letter)

03年花季

知人・友人各位

昨秋、小平市報を見て、久しぶりに消化器癌検診に応募。胃のバリウム検査はOKも、便潜血検査が陽性、内視鏡による大腸癌精密検査が必要との通知。快眠・快食・快便の飲んだくれ、癌なら肝臓と決め込み、家も職場もウオシレットで何で尻から出血かと。2月の末にようやく病院へ。幅5センチ、腸を半周する腫瘍を見せられる。エコーも撮り幸い肝臓への転移はなし。スケジュールの切れる3月2週に入院、切腹することに。

癌を告知されても昨日のと今日のに違いなし。たっぷり脂がのって色艶もいい。腹を割かれて干物になるまではと、夜毎の“宴会”に週末の日帰りスキー。メスが入って“晴れて”病人。花爛漫の季節とて夢、の真似はするまじ。

“死に神”に2度取り付かれ

20代は“共産主義”の旗の下に全世界を獲得せんと無謀な大志を抱き奔走、30代は社会の隅に沈潜し満身の創痕を癒す。40代になってようやく“市民社会”に復帰、サラリーマンを始めた。ここ十年ほどは風邪を引いたこともない“健康優良爺々”。だが十年ほど前から、この時期になると鼻がグジュグジュ鼻水タラタラ、目の周りが痒く、時に大きなくしゃみが出る花粉症に悩まされる。秋田杉の故郷で育てて杉花粉で悩まされるのは免疫力の低下か。幅5センチ、腸を半周するまでに腫瘍を育てる年数を思うと、市民社会に復帰してからの年数とほぼ同じか。何のことはない、にとっては市民社会そのものが堪え難いストレス。それを酒で紛らわし、肝臓で吸収しようとした、単なる社会不適應症？

もっとも死神に取り憑かれたのはこれが最初ではない。癌が死神と恐られる半世紀前、ストレプトマイシンが華々しく登場する前に猛威を振るったのが結核。正岡子規が、芥川竜之介が、堀辰夫が、肺結核を病んで志半ばで逝った碩学の何と多いことか。しかし、ストマイが発見されても高価で、貧しい戦後の日本で誰もが手に入れられる訳ではなかった。エイズの“特效薬”がアフリカの人々の手に届かないのと同じ構図。この時代に一度死神の微笑を受ける。同時期に病んだ従兄弟の一人は高校生で若い命を落すが、就学前のは死神の微笑に惑わされるほど、大人ではなかった？

肺には未だ石灰が沈着するが、人生の曙は野山を走り、海を泳ぐ間に小学校入学前に自然治癒、結核菌を体内から追放、一度は死神との戦いに勝利する。その後手術は扁桃腺だけ。それも村の診療所で血を吐いて悶絶、半分しか取れず。時々“熱源”になるが、今は腫れることもなく、この10年以上風邪も引かないが、人生の黄昏で今一度、死神に出会う。

お尻にパイプレーター？

サラリーマンを辞めると定期健診の機会が少なくなる。酒飲みだがストレスには強いから、肝臓や腎臓は別にして胃腸は大丈夫。それでもたまたま市報が目に入って、消化器癌の検診を申込みと思いがけない結果。ストレスと排泄物は直ぐ水に流す、快眠快便のが消化器系癌の恐れありとは。東大三鷹寮で同期の群馬県立癌センターの沢田副院長に電話。

内視鏡検査しても大腸癌が見つかるのは千人に3人だ、50過ぎたら検査した方がいい、と大腸癌の権威の沢田君。それにしてもお尻からどうやってカメラを入れるんだろう。グルグル回したりするんだろうか。大腸や直腸の手術じゃ、糞尿まみれで大変だな、んまあね、そんなの気にならないよ、と沢田君と会話したことがあるのを思い出す。そこで最近内視鏡でポリープを取った友人にも電話する。下剤を飲まされ、でっかい浣腸をされるけど、痛くないよとのこと。

通じはいいから、浣腸まではしなくていいだろう。痛みに弱いから痛くないのは助かる。検査の朝、下剤を2リットルの水に溶かして2時間で飲む。ただの塩水みたいだが2Lも飲むのは骨が折れる。飲む端から下痢が始まり、最後は水を勢い良く噴射するだけ。お尻の部分が開いたコスチュームに着替え、診察台に上る。若い女性医師にお尻にゼリーの様な物を塗られ、指を突っ込まれ下調べ、あっという間に異物を挿入される。最初はスムーズに進むが、ぐっと押され内視鏡が曲る度に鈍痛が走る。力を抜いてオナラを出して下さいと言われるが、力を入れないとオナラもでない。それに腸を広げるため空気を吹き込まれるので、意思しない時に空気が漏れてオナラが出る。

何事もなくようやく大腸の上部まで到達したらしい。「なかなか腸が開かなくて」、背中越しに会話が聞こえる。一休みして帰り道だ。男性の医者から言われて寝返りを打ちテレビの画面を見る。綺麗なピンクの腸の内壁の一部に血管が集まり、赤黒く見える部分がある。ああ、これが癌ですね。●の見たてを医者は否定しない。間接的な癌の告知だ。告知ってこんな簡単なんだ。かつて癌患者に告知すべきか、声高に論じられた時期があるが、脇には今、家族もいない。国民の三分の一が癌で死に、治る確率も増えた今、癌か癌でないかは問題ではなく、どんな癌か、どう治療するかが問題だということなのか。

三鷹寮の若い諸君と前夜祭？！

入院と手術は御茶ノ水駅前で本郷の事務所に近く、三鷹寮の河野信博先輩(S30年入寮)が院長をする東京都教職員共済の三楽病院に決める。毎日新聞甲府支局に赴任が決まった三鷹寮の後輩の宇都宮裕一君(98年入寮)の激励会を兼ねて、入院前夜●事務所で壮行会。昨年総務省に入り4月から栃木県庁に出向する西浦智之君(98年入寮)、これから就職活動だという大学院の上原毅君(98年入寮)と山本篤君(95年入寮)も駆けつけてくれる。東京海上アセットマネジメントでアナリスト修行中の杉本洋平君(95年入寮)が俺今日は1時間くらいしか眠れないんだよと言いながら十時半頃遅れて顔を出す。

翌12日入院、18日手術。みぞおちから縦に30センチほど開腹、盲腸から先の上行結腸を30センチ切除、周囲のリンパ腺も大分カットして、脂肪過多のせいもあり2時間半の予定が5時間かかる大手術。それでも痛み止めを点滴しながら翌日から歩くと、翌々日には腸の活動も再開、ガスも出て、何も食べていないのに排便もあり、小腸と大腸の吻合もうまく行く。よくある大腸から肝臓、肺への癌の転移もなく、検査の結果意外なことに肝臓、糖尿、コレステロールの数値も正常とのこと。恐れていた?!酒を断っての手の振れもなく、アル中でないことも判明。

万事順調、河野先輩の看立てのように術後2週間で退院だと勇んで1週間後に抜糸すると、脂肪の厚い臍近くが化膿して付かず、もう一度9針縫い直すことになり、1週間退院が延びるも無事術後3週間で退院。

京美人を追いかけて黄金の三角地帯へ

—昨年夏、緑の地球ネットワーク(G E N)の黄土高原植樹ツアーで一緒だった京都の藤井由美さんが、大阪の幼稚園の先生を辞めて、バンコクの子供の就学支援施設ムーバンデックに飛び込んだことをお伝えしました。併せてその施設への資金カンパを呼びかけ、沢山のの方々から多額のご支援をいただきました。その後、施設への係わりを深めるにつれ運営方針に疑問を抱くようになった藤井さんは、新しい施設を作るべく夏頃にムーバンデックを辞めました。以降連絡が取れず心配していたのですが、元の同僚のチェンライの実家で二人の子供を預かって就学支援の活動を始めたこと、自前の施設 Baan Saan Rak(愛を編む家)を作りたいので応援して欲しい旨の年賀状が届きました。

そこで2月の連休にできるだけ裸に近いJTBのパックツアーを探し(泥縄で又もやギリギリだったので選択の余地は殆どなかったのですが)、ビルマ、ミャンマー、タイ3国の国境地帯、ケシの栽培と麻薬取引で有名な黄金の三角地帯の入り口、チェンライを目指す。ソール経由でネパールまで行くというもう一人の京美人を迎える藤井さんと8日の夜、バンコク空港で合流、3人で食事をしてからホテルへ。翌朝は埼玉の若夫婦とエメラルド寺院と王宮、午後の予定だった涅槃仏まで見て、余計なことに射撃場と宝石屋まで連れて行かれる。タイスキの昼食を食べてツアーとは別行動。夕方ホテルで京美人二人と合流、夕食後タクシーでバスターミナルへ。20時発450パーツ(1パーツ3円)のチェンライ行きは満員で、700パーツのトイレつき豪華バスに乗る。京美人からタイ美人に変身した藤井さんは差額の250パーツを惜しがるが、豪華バスになって一安心。

ネオン瞬くバンコクを抜けるとバスはひたすら闇の中を北へ走る。時々小っちゃな売店と食堂のあるドライブインでオシッコ休憩に止まる。明け方、といってもまだ真っ暗闇だが、パラパラと人が降り始める。6時半、白々と夜が明け始める頃、チェンライの1時間ほど手前でようやく我々も降りる。朝市が立っている。丸太にヤシの葉を葺いただけの屋根がかかった半露天の市場だ。肉に川魚、野菜、日用品、揚げ菓子、麺の屋台・・・我々はコンデンスミルク入りのインスタントコーヒーを頼み、クッキーを振舞ってもらう。コーヒーは3人で20パーツ。お礼にいつもの秘密兵器、インスタントカメラを取り出し2、3枚撮ってやると、私もと希望者が名乗り出て、大いに盛り上がる。バイクのタクシーを1台20パーツで雇い分乗、荷物は運転手の足元に乗せ、荷台に跨り目的の村まで20分ほど土煙を上げて走る。対向車が来ると大変だ。

桃源郷は手動の水洗トイレとウオシュレット

乾季も終わりに近いこの季節、日中はボカボカ暖かで朝夕は涼しく、日本の5月晴れの感じでとても過ごし易い。灌漑用水路がよく発達し、年に二回は収穫できるという苗代には青々と稲の苗が芽吹き、畑にはタバコの葉や色とりどりの野菜が元気よく背を伸ばしている。去年の春訪れた乾季のカンボジャの赤茶けた景色とは大分違う。灌漑の有無の差であろうか。畦や庭、道端にはマンゴーやバナナがたわわに実り、砂糖キビをしゃぶりながら、大きな実をつけた椰子の木の下を歩く。コンクリートを打った土間にムシロを敷き、車座になり昼食をご馳走になる。野菜のスープ、魚の干物、鶏肉のカレー煮、パサパサのタイ米と、粘りのあるもち米、それに地ビール。新来の客2人は箸を使うが藤井さんは右手でお米をこね、カレーをつけて口に運びタイ式で食べる。タイに来て1年余り、タイ語も器用に操り、日に焼けて逞しくなり京美人から、タイ美人に変身だ。

さほど広くない集落を端から端まで何度か歩き、少し離れた小学校を見学し子供達と遊ぶ。畑まで足を運び夕飯に野菜を摘んでも夕方までたっぷり時間がある。村に2軒しかない雑貨屋の親父さんがちょうど顔を出す。村唯一の酒屋であり、手動のポンプでドラム缶の灯油も売るガソリン屋であり、リヤカーも売る自転車屋であり、タイシルクの生地と洋服を売るブチックでもある。店の横ではカミさんが店番をしながらシルクを織る。日用品を細々と売るもう一軒と違って、堂々たる“百貨店”を経営する企業家である。その親父さんが往復200パーツでチェンライまでピックアップトラックを走らせてくれるという。よく舗装された道を最速100キロくらいで飛ばして1時間ほどで着く。APEC外相会議歓迎の垂れ幕があちこちに下がる市内は活気に満ち、市場の他にエスカレーター付きのれっきとしたデパートもあり、東南アジア特有の猥雑さが充満している。帰りの荷台にはビールも2ケース積まれている。一瓶15?パーツの地ビールを●がまとめ買いしたので品切れしたのだろうか。

天然エアコン付きのトラックの荷台で夕景からチェンライの街が遠ざかり、ようやく陽が落ちる。トイレと一緒のシャワーブースで汗を流す。飲料には適せず飲み水はボトルで買うが、地下水は豊富である。プロパンガスがあり、給湯器からお湯が出る。コンクリの床に金隠しのない穴ひとつあいただけのシンプルな便器が埋まり、脇にボールの浮いた水瓶がある。用を足した後はボールに水を汲み左手でお尻を洗い、水で流す。手動の水洗トイレ、手動のウオシュレットで衛生的である。用水路で魚を飼い、庭を駆ける鶏（これぞ庭鳥）の鳴き声で目を覚まし、手の届くところに豊富に食べ物があり、日陰で織機がカタカタ音を立てる。まだ商品経済にその全てを絡めとられてはいない、心優しい、桃源郷だ。

クチンのトンネルで腹がつかえ

6月に毛沢東の顔を拝み、お盆休みにクレムリンにも詣でた、となれば年末の休みはベトナムだ。だがこの不景気、焦って申し込まなくても大丈夫と忙しさにかまけ高をくくっていると、どこの旅行代理店へ行っても年末・年始のベトナムツアーは満員で、キャンセル待ちも難しいと言われ、半ば諦める。JR東海東京駅ビルや名古屋鉄道病院の件でJR東海にお世話になっているので、大学で1年後輩のJR東海山田専務に年末の挨拶に行く。途中、少し時間があつたので東京駅のJR東海ツアーズに立ち寄り駄目元で端末を叩いてもらう。奇跡的にJALパックで2席空きがあるという。帰りに手続きするからと押さえてもらい、お陰で助かりましたと言うと、暇だから端末を叩いただけですよと専務。

かつて自力で「社会主義革命」を成功させたのはロシア、中国、ベトナムとキューバ。だが、キューバは勝利したカストロの民族自決・民主主義革命が、その新国家建設過程をアメリカに妨害された結果として社会主義化していった側面が強い。とすれば、残る3ヶ国でなぜ「社会主義革命」が成功し、その後そろって「社会主義=計画経済体制」を放棄し、市場経済への移行を図るに至ったのか。又、あの小国ベトナムがどうしてアメリカに勝利することができたのか。若き●も身を投じたベトナム反戦闘争の歴史的意義は？イラクがアメリカにとってベトナム化することはないのか？3泊5日のパックツアーで答えを出そうというのは土台無理な話だが、とりあえず娘と機上の人となる。

見所はクチンのベトナム民族解放戦線（「ベトコン」と現地でも表記）のトンネル網、これもベトコンの潜んだミトのメコンデルタ、ホーチミンの戦争博物館と最後の大脱出の舞台ともなった大統領官邸。縦横に走り、人民の海の中でベトコンが神出鬼没し、アメリカ

軍を翻弄したクチンのトンネルの入り口は落ち葉を被りとても狭い。スリムな娘は楽々滑り落ちるも脂ののった●の太っ腹ではつかえる。これでは●どころではないアメリカ人では潜り込まれたら最後追跡不可能で、ジャングルの中で見えない敵に狙い打たれ、罠に落ちたのも無理はない。翻ってイラクはどうか？恐怖政治の独裁者フセインではゲリラ戦は難しかろうから、短期に片をつけることができればベトナムの二の舞にはならないだろう。しかし戦闘が長引き米軍の犠牲も増えると、アメリカ国内外の反戦の声が更に高まり、国民に深い亀裂を作り、世界から孤立してベトナムの二の舞にならない保障はない。

ひょっとして大河メコンで泳げないかと、今回も水着を持参した。縦横に水路が走るミトのデルタでは子供たちが水を掛け合い、船上から飛び込んで実に楽しそう。しかし、土の粒子を多量に含むメコンの流れは清流とは言えず、日本海で育った●は飛び込む気にならない。ホーチミンの戦争博物館では戦争の残酷さを徹底して知らされた。圧巻は枯葉剤で死産した水頭症やベトちゃん・ドクちゃんのような多胎児のホルマリン漬の標本だ。ここまでののかという思いもする。欧米や中口の反戦運動が大きく展示され、沢田教一さんや石川玄洋さんの報道写真もおおきく扱われていたが、我々の反戦運動についての言及はなく、我々の運動はベトナムにとって何だったのだと、少し複雑な心境となる。

民族・民主革命としての20世紀社会主義革命

中口、ベトナムもマルクス主義に基づく社会主義革命を標榜していた訳だが、マルクスにとっては迷惑な話だったろう。彼にとって社会主義革命は高度に発展した資本主義国家においてこそ可能であり、従って19世紀に生きた彼にとっての世界革命とは、産業革命を経て資本主義を花開かせたヨーロッパの革命、つまりイギリス、フランス、精々遅れて来た資本主義国家ドイツの問題でしかなかった。だが不幸なことに「社会主義革命」はマルクスの生きた19世紀には実現せず、20世紀に入って資本主義どころか、封建制以前の農奴制のロシアで先ず起こった。あまつさえ折からの第一次大戦による経済の疲弊と列強による干渉戦争は、ボルシェビキによる独裁の長期化とネップによる計画経済を余儀なくさせた。スターリンによるその後の展開は、レーニンにとってさえ誤算だったろう。

中国、ベトナムも同様であった。植民地化された封建国家をいかにして解放し、民主主義化・近代化して行くか。帝国主義化した資本主義列強とそれと結びついた封建勢力から民族を解放し、社会を民主化・近代化するための旗印として、手垢に染まらない新しいイデオロギーが必要だった。それが社会主義である。しかし、高度に発展した資本主義社会で、その更なる発展として構想されたマルクスの社会主義社会を封建・半封建国家で実現するには、“魔法の杖”が必要だ。「能力に応じて働き、必要に応じて取る」理想の社会主義＝共産主義社会は、十分な生産力の発展と欲望をコントロールできる人間を前提とする。生産力の低い社会で欲望をコントロールするには所得と消費を平等化し、外から強制するのが手っ取り早い。当然発生する不満は実力、最後は軍隊の力で抑えざるを得ず、軍事国家化せざるを得ない。他方、内から欲望をコントロールしようとするれば、人間を変えなければならない。そのための運動が中国文化大革命の表向きのイデオロギー的側面だった。

従って20世紀の社会主義＝マルクス・レーニン主義は民族・民主革命のイデオロギーとしては有効に機能したが、ロシアや中国、ベトナムを社会主義国家に変身させることはできなかった。客観的基礎を欠いたところでそれを實現する魔法の杖は見つからなかった。共産党の独裁や計画経済も、強大な軍事力も、「文化大革命」も生産力を飛躍的・持続的に

発展させ、欲望をコントロールし得る人間を生み出すどころか、それを制約し、社会を混乱させる役割しか果たせなかったのである。

民主主義の危機と21世紀「社会主義」の展望

こう書くと、社会主義は20世紀で終わったのではないか？🐷の奴性懲りもなくまだそんなことを言うのか！昔お前のお陰で酷い目に合ったのに、と非難が殺到しそうである。確かに20世紀に中口越が標榜した社会主義は実現しなかったが、実際に彼等が目指したのは民族の解放、社会の民主化、近代化であり、その旗印としては有効に機能した。だがそれは羊頭を掲げて狗肉を売るに等しく、マルクスの社会主義とは似て非なるものだった。社会主義を掲げてベトナム反戦を唱え、時に中国文化大革命万歳を叫んだ我々の運動ともまた、大きく異った。多分中口越より日本の方が発展した資本主義国家として、社会主義を実現する条件を備えていた。だが日本では我々は左翼反対派の域を超えることはできず、社会主義革命を組織することはできなかった。しかし、左翼反対派としては大きな勢力を結集したので時の政権もその主張を無視できず、所得倍増政策や、福祉国家政策を取り入れ、結果として世界にも稀な、所得格差の少ない豊かで平等な福祉社会＝日本型「社会主義社会」が実現し、逆説的に左翼反対派としての力をも失った。

しかし、レッサー・サローが語り、グローバル資本主義の騎手ジョージ・ソロスすらが危惧するように、左翼反対派が現実的な力を失った今こそ民主主義の最大の危機である。「ソビエト体制が崩壊したあとは、自由、民主主義および法の支配を強調するはずの開かれた社会は組織原則としての魅力をほとんど失ってしまい、そこへグローバル資本主義が勝ち誇ったように登場してきた。資本主義は市場の力に全面的に依存することによって、開かれた社会に異なる類の危険をもたらしている。・・・市場原理主義が開かれた社会にとって今日ではいかなる全体主義的イデオロギーよりも大きな脅威になっている」(ソロス、「グローバル資本主義」日経新聞社刊)と。彼は続ける。「資本主義は民主主義を平衡回復力として必要とする。資本主義制度は自力では、均衡に向かう性向をなにも持ち合わせていないからである。資本の所有者は自分たちの利潤を最大限にしようとする。彼らの考えるままに任せておけば、彼らの資本蓄積は事態が均衡を崩すときまで続くだろう。マルクスとエンゲルスは150年前に、この資本主義制度をきわめて見事に分析してみせた。それはある意味では、古典派経済学の均衡理論より優れていたと私は言いたい。二人が処方した治療策の共産主義は病気そのものより悪質だった。だが、彼らの悲惨な予言が現実のものとならなかったのは、民主主義諸国でそれに対抗する政治介入があったからだった」と。

かつてのマルクスボーイとしては二点で彼に異を唱えたい。先ずマルクス・エンゲルスは資本主義の病弊の「治療策」については具体的にはほとんど言及していない。ソロスの批判は20世紀の「社会主義」へ向けられたものだろう。又、社会主義という対抗勢力があったからこそ、資本主義と民主主義はかろうじて均衡を保ち得た。彼が言うように「世の中には民主主義と資本主義はともに手を携えて進んでいくという仮定が広くいきわたっている。実際はその関係はもっと複雑である」。20世紀「社会主義」が対抗勢力たりえなくなった今、それに代わる有効な対抗勢力、イデオロギーが見当たらない今、19世紀的な社会主義を再検討してみる価値はないのだろうか。とりわけ食料といい、水の問題といい、「成長の限界」がはっきりした今、人間環境としての地球の存続のためにも、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」という社会・人間像の構築の可能性は、魅力的なテーマに思

えるのだが。社会的なつながりの中で働くこと自体に喜びを見出し、他人の喜びを我が喜びとし得る、儒教的に言えば「己の欲するところに従いて則を越えない」、脱工業化社会の人間像は21世紀においても無理なのであろうか。マルサスの人口論を科学万能主義的に能天気批判した19世紀のマルクスと違って、放っておけば無限に膨張するかに見える人間の欲望、「経済成長」と今やその限界がはっきりした人間環境としての地球との均衡を図るために。そして60数億の地球上の全ての人間が、人間としての尊厳を保って生き、死んで行くために。かく言う私も欲望をコントロールできているかということ、自信はない。美味しい物が目の前にあるとつい手を出し、うまい肴があるといっちはもう一杯飲み、そのせいかどうか腹を切るまでになってしまったのだから。

環境ビジネスを事業の柱に！・・・三鷹クラブ第48回定例懇談会のご案内

5月の第48回定例会の講師には、同和鉱業(株)社長の吉川廣和さん(昭和37年入寮)をお願いしました。吉川さんによれば、三鷹寮を出発点とする大学生活を振り返って、良かったと思うことは「あまり勉強せず」いろいろな活動に顔を出し多くの友人を得、視野を広げたこと、一方反省点は、やはり「もっと勉強すれば...」だそうです。群馬県高崎高校時代から同期の中島皐介さん(昭和37年入寮、(独)農業生物資源研究所理事)に聞きますと「私は理科にも拘らず、よく酒を飲み、勉強しなかったが、吉川君は、酒も適度に楽しみながら、少なくとも私よりは真面目に学校に出ていた。高校時代から絵が得意で、美大への進学を迷っていた時期もあった。何才になっても同級生を大切に思い、世話の届く良い友人である」と電話で答えてくれました。絵画のみならず、吉川さんは文学、哲学に熱い目を向け、とくにサルトルにあこがれ、今でも愛読書の一つになっているとのことです。さまざまの同窓会活動、野球クラブ、絵画などを通じて人との交流の輪は現在も広がっています。

三鷹を1年で出て下宿生活に入った頃から、吉川さんは少年の非行問題に強い関心を持つようになりました。研究グループに積極的に参加するとともに、教育学部に進んで専門的な勉強を深めました。さらに大学院への進路も考え、準備されたとのことですが、結局縁あって同和鉱業(株)に就職し、その後30余年、現場を含め社内の各分野で幅広い経験と苦勞を重ね、昨年6月社長に就任されました。吉川さんは、仕事での実績はもとより、スポーツ万能、読書好き、絵画からカラオケに至るまで趣味の領域は広く(本人の弁:器用貧乏の典型)、何よりも誠実な人柄で社内の信望を集めて居られます。同和鉱業(株)の起源は、1884年(明治17年)に遡ります。当初からの金属鉱業は、今や構造的な困難を抱えていますが、その中で同社は、逐次体質改善を進め、とくに今回のテーマである環境ビジネス(売上高500億円/年)を新しい事業の柱として位置づけ、それが会社全体の収益に大きく寄与する段階となっており、内外から注目を集めています。社内のリーダーとして改革を進めて来られた吉川さんに直接お話を聞き、例によって会員の皆様との活発な意見交換が行われることを期待しています。(文責平賀)

日 時 平成15年5月20日(火)18時30分~21時

会 場 学士会館本館320号室(千代田区神田錦町3-28 TEL:03-3292-5931)

講 師 吉川 廣和 同和鉱業社長(昭和37年入寮)

演 題 「当社の環境ビジネス(産業廃棄物、汚染土壌、リサイクル、最終処分等)について」

会 費 5,000円(会場費、夕食費等を含む)

申込先 平賀俊行 FAX 03-5297-5020 TEL 03-3256-0559 緑富士(株)
干場革治 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク
e-mail : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

がん病棟から

突然の癌の発見で周りには心配を掛け、クライアントの方々には暫しの休みをいただき、大変ご迷惑をお掛けしましたが、本人はいたって平気。退院すれば支払われるだろう保険金を当てにして？ B5 ノート型パソコンを買い退院前に通信を完成せんと、最後の1週間は日中病院から本郷の事務所に通いながら悪戦苦闘。癌と知った時は最近相次いで60歳早々に亡くなった、かつての安田講堂防衛隊長今井澄参議院議員や旧ML派の指導者畠山嘉克先輩の異なった癌との戦い方を思い出す。癌で余命いくらと宣告されたら、残りの時間を全て癌との戦いに使うのではなく、日常の生活をできるだけ続けて多少は人の役にも立ち、癌と相談してモルヒネを使い静かに人生の幕を引きたい。起伏多い人生だったが、生きたいように生きて50半ばまで来た。幸い、長男は仕事を持ち孫もいる。娘も大学院浪人中だが、遅いからどうにか生きて行くだらう。子供をつくった社会的責任は果たした。神は人間が作ったものだと言ふ不心得者だから、葬式に坊さんは要らない。賑やかに偲ぶ会でもやって、最後のコーディネーター役でもさせてもらえれば最高だ。BGMは青い山脈か高校三年生がいい。未だやりたいことは沢山あるが、“ねばならない”という人生は大分前に捨てた。癌で死ぬということは死ぬまでに時間があるということだ。それまでにやりたいことを多少はできるなどと色々考える。

リンパ腺も大分切除したが、幸い術後の化学療法は抗癌剤の散剤を朝夕飲み、月に1度検診を受け、年に一度内視鏡検査を受けて、2年間様子をみようということになる。入院して抗癌剤の点滴を受けるのと違い副作用もなく、普通に日常生活が続けられる。夜目を覚ますと“痛いよ、痛いよ”という末期癌患者の叫びが聞こえ、痔持ちの直腸癌患者は便が漏れ、排便の度に脱肛すると訴える。肺を切ったばかりの隣の患者は息をするのも大変そうだ。腸から肝臓ともう一つの臓器に移り、3臓器を一緒に摘出は出来ませんと告知される患者もいる。やせ細った綺麗な若いお嬢さんもいる。突然大腸を30センチも切り取り、4週間も入院したのは痛手だったが、自覚症状も他の臓器への転移もない内に見つかり、群馬県立がんセンターの沢田副院長が大腸癌なんて誰が切っても同じだよと、暗にそんな手術で俺のところに来ると言うくらい単純な手術で済んだのはラッキーだった。

それに“清く正しい”4週間のお陰で、一番心配していた肝臓も休ませることができた。パソコンもワープロ代わりに使えるようになり、普段は仲々読めないハードカバーもソロスのグローバルキャピタリズムとトフラーのネクストササエティ、中国革命を批判的に扱った大河小説ワイルドスワン上下など、何冊か読むことができた。何よりも命には限りがあるということを実感的に感じる事ができた。癌に感謝しなければならない。現在の医療水準では5年生きる(完治する)確率は80%くらいのような。取り敢えず5年生きることを目途に、より充実した人生、より多くの人に役に立つ生活を心掛けようと思う。

今回の入院は当面の活動で迷惑を掛ける人にしか連絡しなかったのですが、沢山の方からお見舞いやら、激励をいただきました。ありがとうございました。退院を記念して、緑の地球ネットワークの鵜の森の植樹と、タイの就学支援施設バーンサンラックへ寄付することで、皆様への感謝の気持ちに代えたいと思いますので、宜しくご了承下さい。